

平成25年度

施策評価マネジメントシート(平成24年度の実績評価)

記入年月日

平成 25 年 8 月 20 日

施策No.	政策名	魅力と活力のある産業社会づくり	主管課	商工観光課	主管課長名	鈴木俊男
503	施策名	観光の振興	関係課	農林課、文化財課、都市整備課、企画課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		桜川市を訪れる観光客	①1都、6県の人口	千人	見込値 実績値		42,326 42,420		42,003 42,337	42,005 42,619	42,006	42,008
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		四季を通じて観光客に訪れてもらう	①観光客入り込み客数	人	目標値 実績値		380,500 614,800		620,000 385,500	625,000 333,600	400,000	405,000
		②上野沼やすらぎの里キャンプ場利用者数	人	目標値 実績値		12,607 11,842		6,000 6,716	10,000 11,573	11,500	12,000	12,000
		③真壁町並み(ひなまつり含む)客数	人	目標値 実績値		101,567 111,387		80,000 100,121	90,000 111,097	100,000	110,000	115,000 120,000
		④雨引観音客数	人	目標値 実績値		206,394 415,276		420,000 139,833	430,000 145,159	200,000	205,000	210,000 215,000
	成果指標設定の考え方	○四季を通じて観光客に訪れてもらうために、①観光客入り込み客数と、代表的な集客地②「やすらぎの里利用者数」③「真壁街並み(ひなまつり含む)客数」④「雨引観音客数」を指標とした。 ※①及び④について、平成25年8月に目標値の見直しを実施した。										
	成果指標の把握方法と算定式等	○対象の「1都、6県の人口」は、関東地区の人口。人口問題研究所推計から年別の人口を推計。 ・①観光客入り込み客数は、「茨城の観光レクリエーション現況」から。 ・②やすらぎの里利用者数は、やすらぎの里の利用者実績数を記入。 ・③真壁街並み(ひなまつり含む)客数は、観光客動態調査(行祭事・イベント調査の真壁のひなまつり)＋町並み案内ボランティア(年4回の合計)数を記入した。 ・④雨引観音客数は、観光客動態調査から。										

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと) ○桜川市の歴史や自然に関心を持ち、自ら学び、地域の観光資源を発掘する。 ○来訪者に対する出会いもてなしの心を育む。 ○地域のイベントなどに積極的に参加する。 ○来訪者に誇れる清潔で美しいまちづくりに努める。 ○観光を地域産業として育成していくことに対して、関心と理解を高めるよう努める。	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと) ○市民や観光客の意向調査に努め、つくばエクスプレスや北関東自動車道を活用した観光振興施策を検討する。 ○市民に対し、桜川市の歴史や自然に対する関心を高め、観光を地場産業として育成していくことに対して、市民の合意形成を図る。 ○筑波山周辺市との連携を強化し、地域情報のPR充実を図る。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか？ ○北関東自動車道の開通に伴い、東北方面、1都6県からのアクセスが開け、市内へ訪れる観光客増が見込める。 ○1都6県の人口は減少傾向にある。 ○団塊の世代が引退し、観光需要が増える。 ○健康づくりのニーズが高まり、登山、ハイキング、サイクリング客が増加する傾向にある。 ○23年4月にバス路線が完全に廃止になった。 ○震災の風評被害の影響が懸念される。また真壁地区の歴史的建造物の9割が被害をうけ、復旧に今後3年程度かかる。 ○茨城空港が開港し、観光客の増加が見込まれる。 ○流鏝馬競技会(4月上旬)が行われるようになった。 ○山桜が雑誌で取り上げられて有名になり、今後、観光客の増加が期待できる。 ○雨引観音の本坊(事務所、休憩室、宝物展示、展望室)が整備された。雨引観音では今後概ね10年をかけて、裏山をサクラ公園として整備していく予定。 ○筑波山地域ジオパーク推進協議会が設立され、地域振興策が増えた。 ○観光協会が平成25年5月31日に一本化された。	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？ ○住民の観光に対する期待度は、総合計画策定時の満足度・優先度意向調査でみると、中位より下に位置しているという状態である。現在、市内には観光産業というものはなく、生計は観光に依存していない。 ○観光協会を社団法人化して体制を整え、観光を市の産業として位置づけるようにしたいという声がある。 ○議会から観光大使の設置や桜川市のB級グルメ考案について進めてはどうかという意見がある。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 観光PRの強化・充実	市内を訪れる観光客	桜川市を知ってもらう	観光客入り込み客数	実績値 人	614,800	385,500	333,600				
② 観光資源の充実・開発	イベント、観光資源	イベント、観光資源を充実し、多くの方に訪れてもらう	桜川市で行われているイベントへの参加者数、来場者数	実績値 人	153,000	142,500	162,000				
③ 近隣自治体との連携	近隣自治体	近隣自治体と連携がとれ、観光資源のネットワーク化が図られている	連携している取組み数	実績値 事業	3	3	4				

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	23年度実績	24年度実績	25年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	30		34
②施策事業費(一般財源以外)	千円	7,100		10,156
③施策事業費(一般財源)	千円	31,165		38,589
④施策事業費の計(②+③)	千円	38,265		48,745
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	30,856		21,724
⑥ 計 (④+⑤)	千円	69,121		70,469
				77,650

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
関連する事務事業	主要事業	観光資源PR事業 後期基本計画主要事業
	事務事業	真壁のひなまつり支援事業 H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位
	事務事業	観光パンフレット作成配布事業 H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位
	事務事業	漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会参画事業 H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位

施策番号	503	施策名	観光の振興	主管課	商工観光課
------	-----	-----	-------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・観光客入り込み客数は、22年度614,800人、23年度385,500人、24年度333,600人で、22年度からは281,200人減少、23年度から51,900人減少している。要因は、観光客入り込み客数調査において、雨引観音の観光客数の減による影響が大きい。</p> <p>・岩瀬地区の上野沼やすらぎの里キャンプ場利用者数は平成18年度の14,606人から毎年減少しているものの、平成23年度の震災による半減は別として、平成22年度11,842人、平成24年度11,573人とさほど横ばいを保持。県内及び近県に類似施設があることが減少の原因と思われる。</p> <p>・大和地区の雨引観音は23年度139,833人から24年度145,159と5,326人の増。調査日の天候により多少左右されるが前年並みであった。</p> <p>・真壁地区街並み観光は、年間126件、1,097人が真壁街並み案内ボランティアを利用した。</p> <p>・真壁のひなまつりについては昨年を1万人上回る約11万人が訪れた。臨時バスはTXつくば駅からは16日間で2,141人。JR水戸線岩瀬駅からは11日間で1,129人の利用があった。</p> <p>・テレビや駅からハイキング(9日連続)の影響が大きく貢献している。</p> <p>・北関東自動車道を利用して県北、北関東、首都圏から訪れる観光客が増加している。</p>		

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①観光客入り込み客数の24年度目標値は625,000人に対し333,600人で291,400人下回った。</p> <p>②やすらぎの里利用客数の24年度目標値は10,000人に対し、11,573人と1,573人上回った。</p> <p>③真壁町並み(ひなまつり含む)客数の24年度目標値は、90,000人に対し111,097人と21,097人上回った。</p> <p>④雨引観音客数の24年度目標値は430,000人に対し145,159人で、284,841人下回った。</p> <p>・桜川市全体の観光客入り込み客数は観光客動態調査によると雨引観音の客数が大幅に減った事が影響している。</p> <p>・桜川市内で行われたイベントへの来場者数は162,000人であり、前年より19,500人増えている。</p> <p>・近隣自治体と連携している取り組み数は3事業から4事業になり前年より1事業(筑波山地域ジオパーク推進協議会)増えた。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・平成24年度における茨城県の入込客数(延べ人数)は4,720万人と(前年比19.5%増 平成23年度は3,950万人)なった。</p> <p>・震災後、地震や原発事故の影響を懸念して平成23年度に中止となった花火大会などのイベントが平成24年度は実施されたことや、風評被害により本県観光地への来訪を控えていた観光客が回復しつつあることなどから、平成23年度の入込客数を大きく上回った。</p> <p>・なお、「観光客入り込み客数に関する共通基準(平成21年度国土交通省観光庁策定)」の導入に伴い、平成23年調査から暦年での集計となっており、平成22年度までの年度集計との単純比較はできないため、平成22年度の集計結果について月別に集計している観光地点を再集計した結果と比較すると、平成22年比9.4%減となった。</p> <p>・近隣市町村と比較では、桜川市が前年度入込客数385,500人から333,600人と51,900人の減。筑西市274,700人から348,300人と73,600増、結城市90,700人から88,400人と2,100人減、下妻市814,700人から987,700人と173,000人の増、つくば市3,161,600人から3,454,400人と292,800人の増、石岡市1,011,300人から1,034,100人と22,800人の増となっている。減少の要因としては、真壁のひなまつりでは前年を上回る約11万人が訪れたものの、雨引観音を含むその他の観光地への入込客数が減少しているためと思われる。</p> <p>※平成24年度 茨城の観光レクリエーション現況から記入した。(6月中旬発表)</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
特徴・背景	<p>・住民の観光に対する期待度は、総合計画策定時の満足度・優先度意向調査でみると、平均よりどちらも低く、要注意項目に位置しているという状態である。現在、市内には観光産業というものはなく、生計は観光に依存していない。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>・24年度において重点的に取り組んだ対象地区は、市外、県外(1都5県福島)で、イベント、観光資源を充実し、多くの方に訪れてもらうことを重点的に取り組んだ。貢献度評価の結果、貢献した事務事業は、「真壁のひなまつり支援事業」、「観光パンフレット作成事業」、「漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会参画事業」が施策の成果向上に貢献した事業といえる。</p> <p>・「真壁のひなまつり支援事業」は、運営実施母体である『真壁のひなまつり実行委員会』に対しての支援活動として、茨城県観光物産課、首都圏新都市鉄道(つくばエクスプレス)、東武鉄道、関鉄バスと連携し交通機能PRの拡充を図りました。具体的にはポスター、チラシの作成配布、臨時バスの運行、ホームページ等を活用した首都圏に向けての広域的なPR活動を実施しました。なお、ひなまつり会場における交通安全立哨案内、駐車場整理等については商工観光課以外にも多くの市職員の協力を得ています。</p> <p>・「観光パンフレット作成配布事業」は、6種類のパンフレットを作成し市内の観光拠点へ設置し、観光宣伝PR事業を行った。</p> <p>羽鳥道マップ10,000部 筑波山コース別パンフレット20,000部 上野沼やすらぎの里キャンプ場パンフレット5,000部 みかん狩りチラシ40,000部 真壁を歩こうパンフレット30,000部 平沢地区桜ルートマップ10,000部 ※緊急雇用事業で作成</p> <p>・「漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会参画事業」としては、テレビ放送等宣伝事業で真壁のひなまつりが、平成25年2月8日に磯山さやかの旬刊いばらきで放映された。また、地域支援事業として広域ブロック観光宣伝支援事業の協賛を受け筑波梅林とひなまつり周遊バス運行事業(桜川市・つくば市共同事業)並びにりんりんロード活用促進会議(土浦市、つくば市、桜川市)においてポスター、チラシの作成配布を行った。更に広域周遊促進事業として春と秋の2回ワンデープランを実施した。</p> <p>※筑波梅林とひなまつり周遊バス運行事業 → 事業費548,100円 桜川市観光協会150,000円 つくば市観光コンベンション協会150,000円 漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会248,100円</p> <p>その他の事務事業としては、</p> <p>・「観光協会支援事業」は、市補助金6,000,000円を岩瀬支部へ3,507,000円、真壁支部へ1,993,000円を支出し、それぞれの地区で実施する事業に対し助成を行った。本体へ新たなイベントへの支援費として500,000円を残した。支部事業の主なものとして岩瀬地区では桜まつり、納涼大会、岩瀬駅前祇園祭、真壁地区では真壁祇園祭、まかべ夜祭、かたて祭り、菊花展示大会、駅からハイキングなどへの支援を実施。その他市内全域を対象とした事業の支援としては桜川のさくらに長年携わっている岩瀬地区の市民団体や大和地区の流鏑馬競技実行委員会などに対して後方あるいは側面からの支援を行った。またJR東日本主催の駅からハイキング、県が主催するワンデープランなどの支援も行った。</p>
-------------	--

8. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北関東道やつくばエクスプレス、茨城空港等新たな交通インフラを利用した観光客の増加に寄与するため、既存周辺施設を利用した観光PRを検討していく必要がある。</li> <li>・新たな観光資源に関わる市民団体との連携、支援の検討を行っていく必要がある。</li> <li>・観光資源への交通手段の確保についての検討が必要である。</li> <li>・観光客数は増加傾向にあるものの、地元への経済効果についてはまだ不十分であるため、今後は観光振興の取り組みによって、経済効果をもたらす方策の検討が重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水郷筑波国定公園・笠間県立自然公園の指定を受けている豊かな自然環境、国の天然記念物・名勝指定の「桜川のサクラ」や100軒を越す登録文化財を有する真壁の町並み、多くの観光客が訪れる雨引山等の歴史・文化資源を活かし、観光を桜川市の産業となるよう育成・強化を図ります。</li> <li>・既存の観光拠点の整備拡充を図るとともに、イベントや観光宣伝の強化により、人と人とのふれあいを大切にした体験型の観光地の形成を図ります。</li> <li>・また、つくばりんりんロードや北関東自動車道の活用、さらには筑波山周辺地域との連携により広域観光ルートの開発に取り組みます。</li> </ul>
基本事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>①観光PRの強化・充実                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・桜川のサクラ(磯部桜川公園、磯部稲村神社、平沢地区のヤマザクラ)等の市内桜スポットのPR方法や、桜まつりの駐車場確保についての検討の必要がある</li> </ul> </li> <li>②観光資源の充実・開発                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の玄関口である岩瀬駅前への観光案内所の設置やレンタサイクル事業の開始。</li> </ul> </li> <li>③近隣自治体との連携                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・筑波山地域ジオパーク推進協議会で計画している事業(パンフレット配付、ホームページによるジオサイト紹介等)を推進していく。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市と観光協会のホームページや観光パンフレットによる情報発信をさらに強化していくとともに、マスメディアや観光キャンペーンを積極的に活用し、観光PRの充実に努めます。</li> <li>既存の観光資源の整備と相互の連携をさらにすすめて、新たなイベントや観光資源の充実にも努めます。また、イベント主催団体、市民団体を積極的に支援していきます。</li> <li>近隣自治体が加入している協議会を活用し、イベント会場や観光案内所での合同PR活動を推進し、観光資源のネットワーク化を進め、通過型から滞在型に移行できるように努めます。</li> </ul>